

## 重合前深度マイグレーションによる房総沖深部構造イメージングの初期結果

## Preliminary result of deep crustal imaging off Boso region by prestack depth migration

# 山下 幹也 [1]; 三浦 誠一 [2]; 野崎 謙治 [3]; 小平 秀一 [4]; 高橋 成実 [4]

# Mikiya Yamashita[1]; Seiichi Miura[2]; Kenji Nozaki[3]; Shuichi Kodaira[4]; Narumi Takahashi[4]

[1] 海洋研究開発機構; [2] 海洋機構; [3] 千葉大・理学; [4] 海洋機構 地球内部変動研究センター

[1] JAMSTEC; [2] JAMSTEC; [3] Grad.Sci., Chiba Univ.;; [4] IFREE, JAMSTEC

海洋研究開発機構ではフィリピン海プレートと太平洋プレートが沈み込んで複雑なテクトニクスである房総沖においてプレートの形状と周辺のテクトニクスを明らかにするために2008年4~5月にかけて反射法地震探査を実施した。調査概要や調査目的は三浦ほか(本大会)を参考のこと。得られた記録からフィリピン海プレート・太平洋プレートの上面と思われる反射面や堆積層の複雑な変形構造が確認できた。本研究ではより深部構造を詳細にイメージングするために重合前深度マイグレーションを実施した。北東南西方向に伸びるLine 1について構造が異なる4つの領域に区分し、時間断面でそれぞれの領域において複数のユニットに分類し反射面の読み取りを行った。その反射面に対するセンス値が収束するよう速度モデルを作成し、深部構造イメージングを行った。まずフィリピン海プレートの形状と深度に着目して速度モデルの構築し構造イメージングを行っている。本講演では、重合前時間マイグレーションの結果と重合前深度マイグレーションの初期結果を報告し、これまで得られている結果との比較検討を行う。